

Nuns and Soldiers における Anne Cavidge の分析

石本 弘子

この物語は女主人公 Gertrude の夫 Guy が癌の末期で死を迎えている場面から始まる。Gertrude の大学時代の親友で15年間修道院に入っていた Anne が、修道院を抜け出し、夫 Guy の死に対して覚悟ができずに恐怖で苦しんでいる Gertrude の前に、ある晩、突然現れる。

この発表では、何故 Anne が修道院から逃げ出してきたのかを考察し、彼女の役割や魅力について考え、さらに宗教観や人間性を考察し、彼女が何を求めてアメリカに旅立とうとしているかを考えたい。最後に Anne についての考察を基にして、Anne と Murdoch との関連性について言及したい。

Gertrude が夫の看病に精神的に疲れていたため、Anne は断ることができずに邸宅に留まり Gertrude を慰めることになる。Anne は邸宅に滞在中に一度だけ Guy とふたりきりで対談をする。会談中に、何故修道院を抜け出してきたのかと Guy が Anne に尋ねたら、Anne は宗教に対する考えが変わったからだと答えている。信仰を失ったのかという Guy の質問に対しては、Anne ははっきり否定している。死を目にした Guy は、自分の言いたいことを理解できる人に聞いて欲しかったので、Anne は Guy のためにも尽くしている。また、Guy は心に余裕があり、思慮深い人格の持ち主だったので、愛する妻が自分の死後に不幸になることを心配し、Gertrude を密かに愛していた自分の親友の Count と自分の死後に、結婚するようにと妻に言い残した。ところが、Gertrude はうだつの上からない画家の Tim と恋に落ち、Guy の心遣いを台無しにしてしまう。Anne は自分が修道院から抜け出してきたのは、このあってはならない事態を阻止するためだと直感する。だが、Anne は Count に想いを寄せていたので、Gertrude が Tim と上手くいけば、Count が Gertrude を諦めて、自分を好きになるかもし

れないと計算してしまう。そして、実際、Tim が Gertrude を追ってフランスの別荘に急に現れた時には、Anne は Gertrude と Tim をふたりきりにするために、Count を無理やり自転車に乗らせて、立ち去らせたりした。このように Anne は自分の欲望を抑えきれずに行動さえ起こしている。Anne の私利的な行為から判断したら、彼女は尼僧として超一流だとは言えないだろう。

それから、物語の中盤で Anne のキッチンにキリストが現れるという超自然的現象が起こる。この時出現したキリストは「悪を避けて正しいことをしなさい。」と Anne に告げた。この有難い言葉だけで Anne は満足できず、思わずキリストの衣服に手が伸び、触ってしまい、火傷をしてしまう。そして、キリストが去った後、何日経っても火傷は消えず、この奇跡的なキリストの出現の証拠となる。

次に Anne が何故アメリカに旅立ったのかを考えてみたい。Count に失恋したことも一つの要因であると考えられる。Anne は尼僧としてではなく、一人の女性として Count に受け入れて欲しかったが、彼に対して恋人としての役割ではなく、むしろ母親のような役割を果たしてしまう。このことを Anne も後に後悔している。さらに、政治的な関係もあったと思われる。Anne はアメリカという自由な新天地で生まれ変わったのだ。アメリカは Anne が個人と社会との統合が実現できる国である。だが、なんといっても、一番大きな要因は、Anne が純潔を求めていたからだ。彼女は雪よりも白くなりたいと願っていた。

Anne は宗教的な迷いがあったので、超一流の尼僧とは称せられないかもしれないが、彼女は素晴らしい人格の持ち主だ。Anne が抱えている信仰に関する苦悩は簡単に解決できるような課題ではない。しかし、Anne が信じている living Christ を崇拜し、畏れることも立派な信仰形態

だと思う。Anne は修道院を抜け出した後、我儘な Gertrude にふりまわされて、愛する Count も Gertrude に奪われて、失望や妬みを抱え、苦しい経験もした。だが、Anne は、この先、さまざまな場面で活躍し、アメリカで超一流の mystic を目指して努力をするだろう。アメリカは Anne が新しい環境で心を新たにし、生まれ変わる国だろう。

最後に Anne と Murdoch との宗教的な関連性について考えたい。Anne は Murdoch の等身大だと考えられる。Murdoch の宗教的な疑問を Anne が代弁している。だが、「神の不在における善というこの小説における苦悶には答えが出ておらず、Murdoch の次のステップとなっている」

と Hilda.D.Spear は述べている。Anne は個人的な living Christ を絶対的に受け入れているが、Murdoch が繰り返し彼女の小説の中で仮定している普遍的な問いに対しては十分には答えていない。Anne は自己犠牲により、他者を幸せにしてきたが、Murdoch も彼女の友達や生徒の間では「Miss Murdoch は聖人だ」という噂があったほどの人格者だった。また、この小説で Anne を介して提示している Murdoch の宗教的な疑問は奥が深く、難解だが、この研究で Anne を詳細に考察することにより、Murdoch の宗教観や思想を垣間見ることができた。

(会員)